✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　バングラデシュ国気象観測・予測能力向上へのプロジェクトについて

日本の ODA（政府開発援助）の一環として、バングラデシュ国において「気象・予測能力向上プロジェクト」(本稿では上位プロジェクトと呼ぶ)が一般財団法人日本気象協会によって実施されており、そのプロジェクトの一環として、「測器校正・保守管理」に関するプロジェクトが実施されることになり、当センターから職員が派遣されて対応しています。

今回のプロジェクトは 8 月から始まり年内に完了するという短期の技術協力ですが、第１回目の現地派遣として、8 月下旬から３週間の予定で、バングラデシュ気象局（BMD）本局および地方観測所の調査を行います。8 月 18 日に現地に到着しましたので、バングラデシュの事情について速報いたします。

写真１ダッカの気象レーダー

バングラデシュは国土の 90%がガンジス河を始めとする大河のデルタ地帯で、その大部分は標高 10m 以下の低平地です。南部地域はサイクロンによる高潮浸水被害、北部地域は近隣国との山岳地域に囲まれていることから洪水被害の多い国です。その他、竜巻やスコール、大雨、強風、熱波・寒波等の自然災害により、多くの被害が出ています。日本からは MTSAT の受信解析システム（SATAID）や 5 基の気象レーダーが供与され、ほぼ全国を気象レーダーの観測網がカバーすることになるとともに、全国合成レーダー画像の作成も可能になりました。

しかし現在の BMD の技術力は気象レーダーから得られるデータを十分に活用できる状況ではなく、上位プロジェクトによって、気象レーダーの有効利用、数値予報システムの導入、AWS・自動雨量観測所の導入、それらの総合的な解析等、気象予報能力・観測能力の向上が実施されることになります。その中で、本プロジェクトでは、気象観測精度の維持・観測データの品質管理のために、気象測器の校正・保守管理に関する技術移転を行います。

写真２　ダッカ市内中心部の交通渋滞

バングラデシュの状況については 2008 年の賛助会便りにも概要を紹介しましたが、5 年前にバングラデシュを訪れた時と同様、2 車線の道路に 4 列の車列ができ車がほとんど動かない状況の過酷さは変わっていませんでした。

今後、BMD 本部の気象測器校正業務の実情や、地方観測所の測器維持管理状況等を調査する予定ですので改めて紹介をいたします。

（気象業務支援センター　振興部）